



【自主 敬愛 勇健】 ～生徒が自信をもって生き生きと活動する学校～

＜秋の読書週間(10/21～10/25)＞ ～職員による「読み語り会」を行いました～

本校では、朝の会が始まる前の10分間を「朝読書」の時間としています。読書に親しむことを日々の生活習慣にしてもらいたいという願いからです。そのために、定期的に新刊やおすすめ本を紹介したり、貸出冊数を増やしたりしています。また、春と秋には読書週間を設け、クイズやパズルなどを企画して行うなど、生徒の読書意欲を高めるための取組を行っています。職員による「読み語り会」も、その中の取組の一つです。「読み語り会」は、担任以外の職員が学級に出向き、生徒の前で本（絵本）を読んで聞かせるという取組です。

私も担当の一人であったので、3年生の教室に出向き、読み語りを行いました。10分間という短い時間で完結でき、かつ、生徒が興味関心の持てる本が適切であるので、選書するのにかなりの時間がかかってしまいました。内容がつまらなく、嫌な表情をする生徒もいるのではないかと心配していましたが、予想とは全く逆で、全員が真剣に聞いてくれて、とても嬉しかったです。授業中の様子からも言えることですが、3年生に限らず、どの学年の生徒も「相手の話をしっかりと聞く」という姿勢が着実に身につけてきていることを感じます。この姿勢は相手を尊重することを示し、相手との良好な関係を築くことにつながります。社会で生活していく上での生きる力でもあります。これからも伸ばし続けてほしいです。



「1学年通信」(10/18 発行)には、読書による効果が下記のように記載されていました。

【宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ】(「ウォルト・ディズニー」※アメリカの実業家)

10月21日から秋の読書週間が始まります。1年生の皆さんは入学してから図書館で何冊本を借りて読書しましたか。子どものうちからの読書活動は、皆さんがこれから人生を生きていく上で、必要な力を見につけるために欠かせないものだと思います。

文部科学省のHPでも、以下のように掲載されています。

「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものである」

皆さんは本を読むことで、何かをイメージしたり、新たな言葉や表現を学んだり、未知の世界に触れたり、知らないうちに様々な力を身につけているのではないのでしょうか。それは、何も「勉強」だけに役立つ知識ではありません。これから生きていくための力になると思います。

具体的な例を挙げていきましょう。

登場人物に感情移入し、嬉しさや悲しさを自分事のように感じることで「感性」が、文章を読んで場面をイメージすることで「創造力」が磨かれます。感性を磨けば、小さなことでも幸せを感じられる心が育ち、幸福度が高い人生となります。創造力を磨けば、相手を思いやれる心が育ちます。

人生をより豊かに生きていくために必要な力を育んでくれるので、子どものうちからの読書活動は非常に重要な意味を持つと言えるでしょう。

現在、情報化やデジタル化が目まぐるしく進歩しています。それに伴って、紙面の文字を読む機会が少なくなるかも知れませんが、読書のよさをまわりの人に勧め、自らも時間を見つけて読書に浸りたいと思っています。